

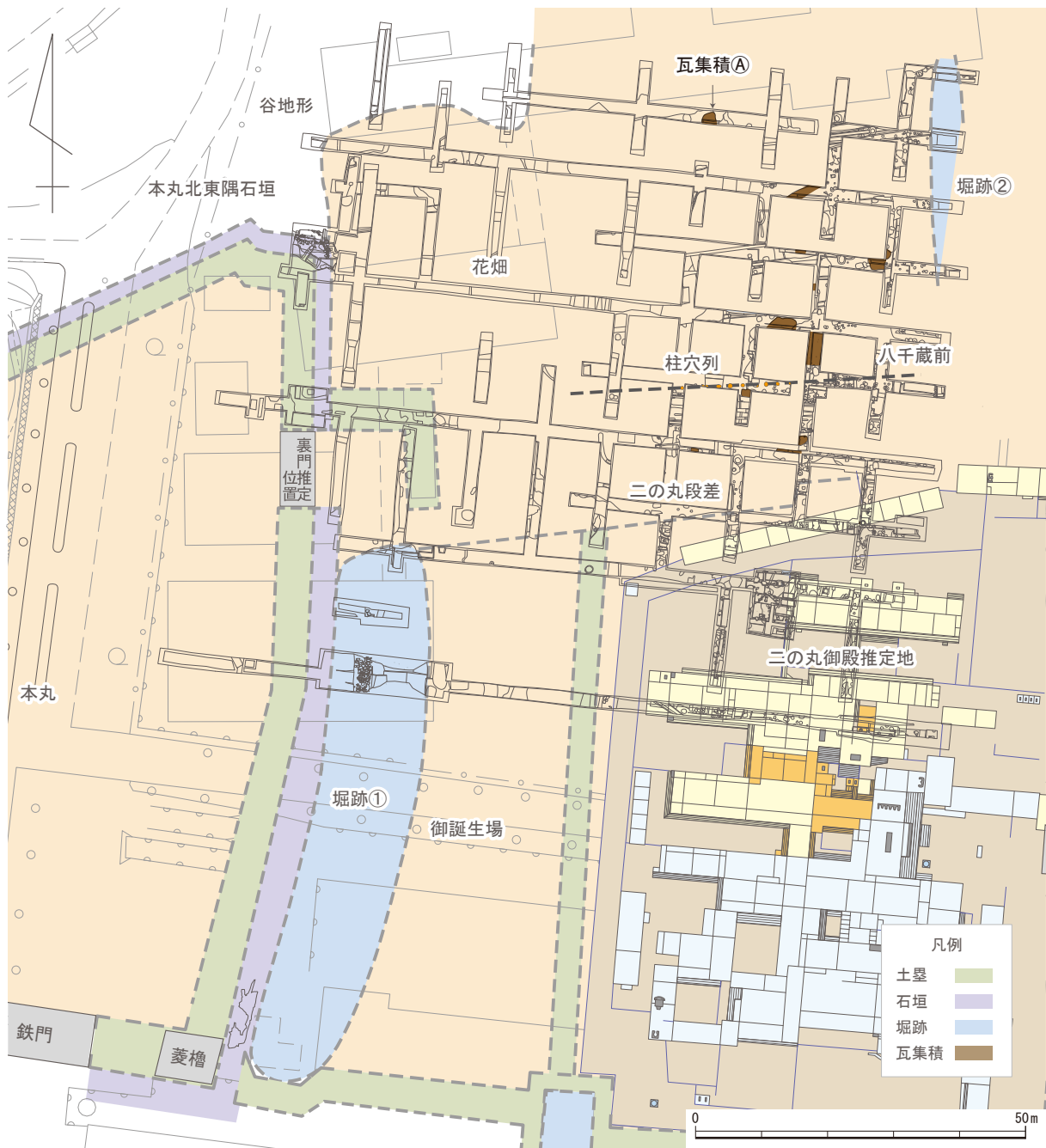
はままつじょうはっくつつうしん
浜松城発掘通信

Nº16

浜松市文化財課 2021年 8月 30日

城主の家紋をあしらった鬼瓦等が出土しました。

令和2年度の調査では、二の丸の外縁部にあたる元城小跡地の北側（近代には花畑や八千蔵前と呼ばれた地区）では城主の家紋をあしらった鬼瓦や軒瓦を含む大量の瓦が出土しました。家紋瓦が用いられており、みせることを意識してつくられた建物があったと考えられます。



江戸時代の遺構 ※御殿などの建物の位置は推定



瓦集積④作業の様子。作業者の手元にある瓦が鬼瓦



「青山家御家中配列図」(浜松市博物館蔵)
(17世紀後葉・調査区周辺拡大)

絵図には浜松城の構造をはじめ、建物の屋根が瓦葺きか板葺きかなど、浜松城の構造やその変遷を明らかにするための情報が数多く描かれています。



「浜松市全図」(大正7年(1918年))を基に作成
大正14年の地籍整理以前の地籍、地番、町域が正確に記録された地図です。字名など(花畑や八千蔵前など)浜松城の構造をうかがい知ることのできる情報が残されています。



瓦集積④検出状況

太田氏(桔梗紋)(1644~1678)や本庄松平氏(繫九目結紋)(1702~1729、1749~1758)の家紋瓦が多く出土しており、両氏が城主を務めた頃に、瓦の葺き替えを含む修繕等が多く行われたことがうかがえます。



瓦集積④出土鬼瓦(繫九目結紋)

本庄松平氏の家紋である、繫九目結紋をあしらった鬼瓦が出土しました。登城者の目にふれる施設に葺かれていたと考えられます。

令和3年度も、浜松城の本丸や二の丸にあたる、旧元城小学校敷地内の発掘調査を6月21日より開始しました。今年で3年目を迎えた発掘調査ですが、本年は二の丸御殿の構造や、本丸石垣の構造を中心に調査を進めていきます。